

(七)立沢の村竹茂市

「農民裁判文書」(『秩父事件史料集成』所収)等によって、立沢の村竹茂市・中三沢の新井勘五郎・土京の吉橋勇二郎の三人に触れてみたいと思います。

# 新連載 皆野町の秩父事件⑩

角屋で子供ほど年の差のある甲大隊長の新井周三郎に指揮がなっていないと小隊指揮旗を取り上げられ、十国峠の向うの大日向村では天保銭二十五枚と人夫並

「秩父困民党 役割表」に名前がある三十八人のうち信州転戦組に加わったのは菊池貫平(参謀長・北相木)、坂本宗作(伝令使・上吉田)、門平惣平(同・上日野沢)、村竹茂市(阿熊村上日野沢村小隊長・上日野沢)のわずか四人だけです。十一月三日、皆野の

みの分け前しか貰えなかった村竹茂市をみると、彼が四人の中の一人であったことに驚きを禁じ得ません。

十月三十日、自村の自由党员竹内吉五郎から翌日の小鹿野での陽動作戦(山二や常盤屋に大衆動員をかけた高利貸交渉をまだ続ける)と見せかけた)に参加するよう言われますが、蜂起の際着ていく身支度が整っていないことを理由に参加を見合わせます。家紋を入れることは間に合いませんでしたが、袴・羽織一式を仕上げ十一月一日下吉田村椋神社に参集しました。三日、新井周三郎に小隊長を解任された後柴岡熊吉(会計兼大宮郷小隊長)の部下となり「荒川端(栗谷瀬の渡)で見張り番」を務め、四日大淵で新井周三郎が捕虜の青木巡査に斬られ重症を負うと、茂市は真っ先に駆けつけ戸板に乗せた周三郎を角屋に運び看護しました。信州転戦中は終始荷物運搬の任だったようです。

以上からその人の律儀さ・愚鈍とさえ言える実直さ・責任感の強さを伺うことができますが、なぜ信州転戦組に加わり東馬流から

敗走後も最後まで隊を離れず戦いとおした彼の真意を知ることには出来ません。

1885年1月19日、浦和重罪裁判所で村竹茂市に刑の言渡しがあり、騒擾教唆助勢罪が適用され軽懲役七年六月が確定しました。殺傷や放火などの罪は見当たらず唯小隊長をしたという形式的な理由での重刑でした。浦和監獄に収監された茂市は刑を終えることなく、翌年の大晦日に獄死しました。享年四十七歳でした。

地元では茂市つあんと言う人は遠い旅先で病に倒れ死んだと聞かされて来たそうです。子孫が住まわれる実家近くの村竹家墓誌に「村竹茂市」はあるものの遺骨は墓に入っていないということです。



村竹茂市の墓誌

## 消費税増税ストップ これからだ

二〇一四年四月から8%、一五年十月から10%に税率を引き上げる消費税増税法案。民主、自民、公明3党の賛成で成立しました。

増税法成立直後の全国の世論調査(8月12日)で、なお消費税増税反対が56・1%と多数です。野田内閣は「消費税引き上げは、すべて社会保障に使う」と答弁していますが、参議院では、消費税引き上げで生まれる財政のゆとりを大型公共事業に使うかどうか、主要なテーマになっていました。

「これ以上、消費税が上がったら生活していけない。私たちに死ねというのか」「中小業者が消費税を価格に転嫁できない現状を知っているのか」これが国民の声です。

消費税増税実施までに、総選挙と参議院選挙があります。この2つの選挙で消費税増税反対を国民の意思で示しましょう。

## 新米議員のひとりごと

常山 知子

先日、京都の友人から涼しい風をのせて、残暑見舞いが届きました。その葉書に写っているのは、祇園花街の芸妓さん、舞妓さんです。

8月1日、祇園花街ではお世話になっているお茶屋さんやお師匠さん宅を訪問して「おめでとうさんどす、相変わりませず」と挨拶してまわるそうです。

黒紋付きや正装で歩く舞妓さんや芸妓さんを見ると、32度をこえているのを忘れるというところで・・・。涼しい風が送られました。

京都の祇園まつり、秩父地方のお祇園。流れは京都からきているのでしょうか? 「ヨイヤサー」と静かな京都にくらべ、秩父屋台ばやしのお囃子は胸に激しく打つものを感じます。

お祇園、秩父音頭まつりが終わり、夜は虫の鳴き声が響き、確実に秋が近づいています



